

東京 肝臓のひろば

令和5年(2023年)6月号 第254号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>



小田原城 ～神奈川県小田原市～

絵・故山高定三さん

「肝炎コーディネーター」を知っていますか？

みなさんは「肝炎医療コーディネーター」を知っていますか？肝炎患者が適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関、行政機関その他の地域や職域の関係者間の橋渡しを行う方々です。肝炎ウイルス検査の受検、検査陽性者の早期の受診、肝炎患者等の継続的な受療の促進、行政機関や医療機関によるフォローアップが円滑に行われるようにすることを基本的な役割としていて、各都道府県で養成しています。現在、この方々が中心となって様々な肝炎対策を推進していて、私たち肝炎患者にとってなくてはならない存在です。

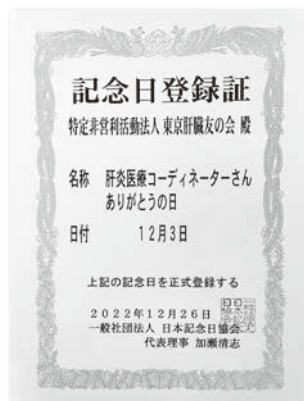
これまで東京都では職域でのみ「肝炎医療コーディネーター」を養成していたので、限られた職場の方だけにしか認知されていませんでした。残念ながら一般の患者が肝炎医療コーディネーターさんを目にすることはほとんどなかったのです。しかし2022年度から医療機関に勤務する方、区市町村・保健所等で肝炎事業に携わる職員や患者会会員まで対象が拡大され養成されることになりました。昨年度は3月に養成研修会が開催され24名の患者コーディネーターが誕生しました。みなさんも今年度の養成研修会に参加して肝炎コーディネーターになり、患者としての経験を活かし、ぜひ活動に参加されてみてはいかがでしょうか。

12月3日「肝炎医療コーディネーターさんありがとうの日」

全国の肝炎医療コーディネーターさんは拠点病院や一般の医療機関、役所、保健所などに配置され、日々肝炎対策に尽力してくださっています。看護師さんや保健師さん、薬剤師さん、医師、役所のご担当者など医療者だけでなくあらゆる方面の方が、患者支援のために活躍されています。みなさん、自分の本来の仕事に加えて、肝臓病教室、講演会の企画や検査促進のための啓発イベントの実施などボランティアで活動してくださっているのです。そんな肝炎医療コーディネーターさんに感謝の気持ちを伝える記念日を東京肝臓友の会が作りました。

名付けて「肝炎医療コーディネーターさんありがとうの日」です。昨年12月3日に熊本で開催された「第120回日本消化器病学会九州支部例会」メディカルスタッフセッションで、事務局長の米澤が「肝炎医療コーディネーターさんに感謝を込めて記念日を作りたい！」と発言した日に因んで、12月3日になりました。「1、2、3」と覚えやすいので、今年の12月3日には患者と肝炎医療コーディネーターさんで何かイベントを実施できたらいいなと思っています。

肝炎医療コーディネーターの育ての親である佐賀県の江口ゆういちろう先生が理事長を務めておられる江口病院で、記念日制定のお礼ということで募金を募っていただき、東京肝臓友の会の事務所でその贈呈が行われました。江口病院の職員さんはほとんどが肝炎医療コーディネーターの資格を持っておられ、様々な活動を行っていらっしゃいます。感謝を伝えたいという思いがこのようなことになり恐縮です。ありがとうございました！



Thank you!

市民公開講座 ①

順天堂大学免疫治療研究センター 主催 / ウイルス肝炎研究財団・東京肝臓友の会 共催

「届けよう! 治療と診断」 みんなで繋ぐ 肝・胆道疾患の未来

●日時: 2023年3月19日(日) 13時~15時 ●場所: 順天堂大学 有山登メモリアルホール

※紙面の関係上、当日のプログラムから抜粋して掲載いたします。

『専門医師からの標準治療について ~難治性の病気の理解を深める~』

講演 「肝疾患に対する“かゆみ”対策」

講師 高森建二先生(順天堂かゆみ研究センター センター長)

高森 ご紹介いただきありがとうございます。ご紹介します。順天堂大学の高森と申します。本日は難治性かゆみについて

司会(福田布貴子アナウンサー) それでは「肝疾患に対する“かゆみ”対策」、順天堂かゆみ研究センター長、高森建二先生のご講演です。まず略歴をご紹介させていただきます。高森先生は1967年に順天堂大学医学部を卒業後、1977年からアメリカデューク大学皮膚科などを経て、1993年に順天堂大学医学部皮膚科教授に就任されました。2007年に順天堂大学名誉教授・特任教授に就任、翌年には同大学院医学研究科環境医学研究所長に、2019年には順天堂かゆみ研究センター長に就任され、現在に至ります。ご専門は皮膚の生化学一般、かゆみの生理化学、アトピー性皮膚炎の病態と治療、難治性かゆみのメカニズムと治療法の開発、アフエレンシス療法です。では高森先生、よろしく申し上げます。

高森 最初はかゆみ全体について簡単に見ていきます。この図はかゆ

てお話しします。いわゆる抗ヒスタミン薬の効かないかゆみを難治性かゆみと言います。ほとんどの場合、かゆみといえは抗ヒスタミン薬が投与されます。皆さんがどんな病気でも、内科でも皮膚科でも受診すると、必ずかゆみ止めの薬をもらえる。世界でもそうですが、日本にはかゆみを止める薬は抗ヒスタミン薬しかありません。ですからどんな病気に対しても抗ヒスタミン薬が使われているわけです。しかし現在問題となっているのは、こうした抗ヒスタミン薬が効かないかゆみが多数あることで、そのために患者さんが悩まれているのが現実です。いかにしてこの抗ヒスタミン薬を使わずに他の薬でかゆみを止めることができるか?というのが我々に与えられた使命でもあります。本日は肝臓の勉強会ですので「肝疾患に対する“かゆみ”対策」と題してお話しさせていただきます。

もくじ | Index

東京肝臓のひろば 254

- 2** 「肝炎医療コーディネーターについて」
- 3** 届けよう!治療と診断
「市民講座① 肝疾患に対する“かゆみ”対策」
- 10** 「市民講座② 本邦の肝移植の現状について 最近の話題:くすりの要らない肝移植」
- 16** 「大人のラヂオ」2/10日放送
「免疫抑制剤の要らない肝移植」
- 23** 「市民講座③ トークイベント 患者さんの闘病体験談からアンメットメディカルニュースへの提起」
- 26** 「市民講座④ 医学研究・臨床試験における患者・市民 参画 (PPI: Patient and Public Involvement) の取り組み」
- 30** PBC・AIH・PSC通信
- 31** 「ジコメン・メディカル」 帝京大学医学部附属病院 田中篤先生
- 32** 情報BOX
- 33** 肝炎デーフォーラムのお知らせ
東京肝臓友の会 活動日誌 (4月、5月)

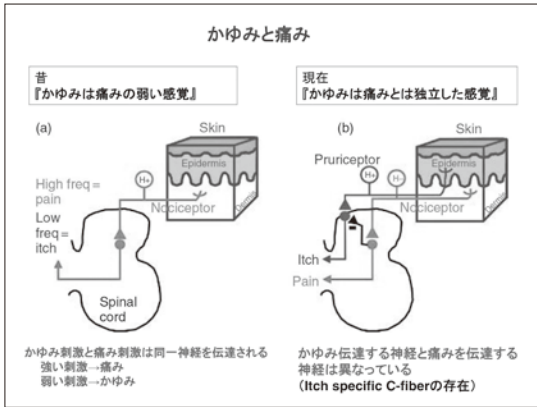


図 1

みと痛みの違いを示したものです(図1)。昔は、かゆみは痛みの弱い感覚であると考えられていました。かゆみと痛みは同一の神経を伝達され、強い刺激は痛みになって、弱い刺激はかゆみになるというものでした。しかし現在では、かゆみと痛みは独立した感覚であるという考え方が当たり前になっています。すなわち、かゆみを伝える神経と痛みを伝える神経は、別々に独立して存在しているということです。この

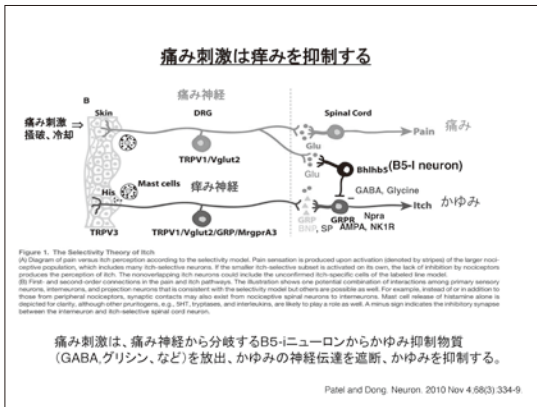


図 2

図の右側は、かゆみ (Itch) と痛み (Pain) は根本的に違うのだということを示しています。それから、我々はかゆいと掻きますね。掻くとかゆみが止まります。あるいは、冷やしても止まります。そのメカニズムを簡単にお話しします(図2)。この図では痛みを伝える神経が上の赤色の線、その下がかゆみを伝える神経です。冷却や引っかくことによる痛み刺激が与えられると、痛みを伝える神経が興奮

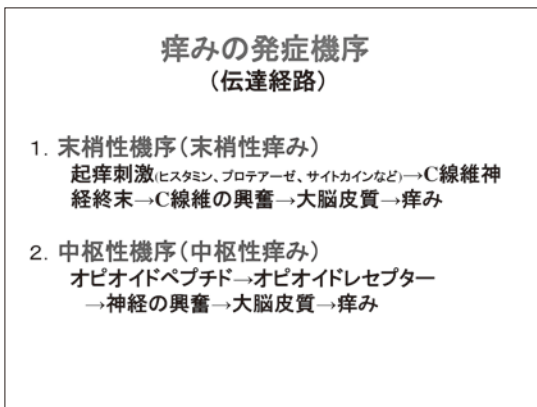


図 3

します。そして枝分かれしている神経から、かゆみ抑制物質である GABA (ギャバ) やグリシンなどが放出されます。それがかゆみ神経を遮断して、かゆみが抑制されるというメカニズムです。昔から考えられて民間で行われている冷やす行為は、実は正しかったことが証明されました。

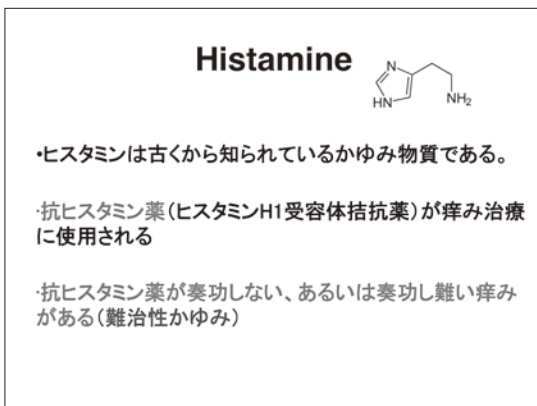


図 4

です(図3)。かゆみは、末梢性のかゆみと中枢性のかゆみに分けられます。これはかゆみのメカニズムの一つです(図3)。かゆみは、末梢性のかゆみと中枢性のかゆみに分けられます。一方ヒスタミン薬がよく効きます。一方で中枢性のかゆみには、オピオイドなどが関与したかゆみがあります。

ヒスタミンによる痒み

Lewisのtriple responseを伴う

1. 血管拡張による発赤(red spot)
2. 軸索反射による紅暈(flare)
3. 血管透過性亢進による膨疹(wheel)

* 抗ヒスタミン薬により抑制される。

図5

オピオイドが神経を興奮させてかゆみを起こすというメカニズムです。この中枢性のかゆみに対しては、抗ヒスタミン薬は効きません。

ヒスタミン (Histamine) とは、古くから知られているかゆみ物質です(図4)。抗ヒスタミン薬はかゆみ治療に使われていますが、この薬が効かないかゆみというのが、一番問題になっている難治性のかゆみです。この難治性のかゆみのメカニズムについてお話ししていきます。



図6

ヒスタミンによるかゆみの場合は、ご存じのように掻くと赤くなります(図5)。血管拡張といって、血管が開くことで赤くなるのです。それから血管透過性が亢進するの膨れてきます。赤くなって膨れてくる、そしてかゆい。これが蕁麻疹の特徴です。この写真は蕁麻疹の臨床像です(図6)。このようにヒスタミンによって血管が拡張して赤くなっています。そして神経が刺激されてかゆみが出て、血管透過性

難治性痒みを呈する疾患 (抗ヒスタミン薬抵抗性の痒み)

1. 腎不全、尿毒症、血液透析
2. 胆汁うっ滞性肝硬変(胆管炎)、黄疸
3. 乾癬
4. アトピー性皮膚炎
5. 結節性痒疹、アミロイド苔癬
6. 乾皮症、皮脂減少性湿疹
7. 内臓異常に由来するかゆみ(内臓癌など)

図7

が亢進して腫れてきます。この場合には、ヒスタミンがかゆみを起こしているの、抗ヒスタミン薬が著効します。

ところが、抗ヒスタミン薬が効かないかゆみがあります(図7)。この難治性のかゆみを伴う病気はどのようなものが多いかというと、まず腎不全などの腎臓疾患です。それから肝臓疾患、アトピー性皮膚炎などいろいろな病気があります。そしてまた大事なのが内臓異常に

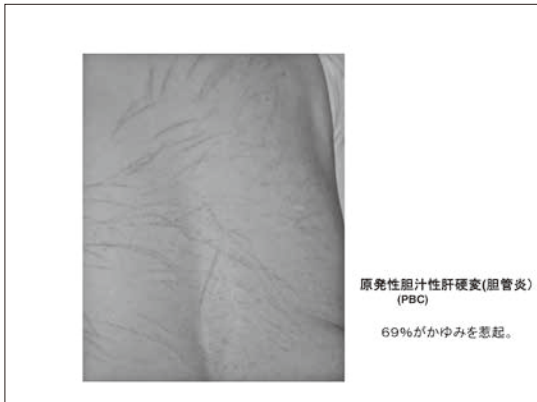


図8

由来するかゆみ、いわゆる内臓のがんなどです。私が経験したのはすい臓がん、胃がんの患者さんで、抗ヒスタミン薬を投与したりいろいろなことをやったりしても効かない、難治性のかゆみがありました。最終的には内臓のがんであることがわかって、その治療をすれば良くなるということも経験しています。このように、現在一番問題になっているのは、抗ヒスタミン薬抵抗性のかゆみです。

2023年度 日本肝臓学会 関東地区市民公開講座

テーマ

肝臓病の新時代

～よく見て・よく聞いて・よく話そう～



日時

2023年7月30日(日)
午前10時00分～12時00分

入場無料

場所

ライトキューブ宇都宮 宇都宮市宮みらい1-20

当日会場にお越しいただくか、配信期間内に下記オンラインにてご覧ください。

YouTube オンデマンド配信 (2023年8月1日～8月14日)

『肝臓病の新時代』2023年度 日本肝臓学会 関東地区市民公開講座

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLakbC-pmiQlzAVIwnOykl9hTY1-nmEI6N>



プログラム

- 司会 森本 直樹 (自治医科大学 消化器内科)
- 講演1 知ってそうで知らないウイルスのお話
～新型コロナウイルス、B型肝炎ウイルス～
村田 一素 (自治医科大学 ウイルス学)
- 講演2 ゴール目前! ここまできたC型肝炎治療
池上 正 (東京医科大学茨城医療センター 消化器内科)
- 講演3 その脂肪肝、大丈夫?
三浦 光一 (自治医科大学 消化器内科)
- 講演4 肝硬変について知ろう ～栄養から医療費助成まで～
柿崎 暁 (国立病院機構高崎総合医療センター 消化器内科)



主催：一般社団法人 日本肝臓学会
共催：栃木県肝疾患診療連携拠点病院
後援：厚生労働省、栃木県、栃木県医師会

事務局：自治医科大学 消化器内科
メール：kanzo@jichi.ac.jp
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL：0285-58-7348 FAX：0285-44-8297